

初夏を飛び越して、

初夏を飛び越して、真夏になり、コロナウィルスとの戦いのうちに令和2年も半分が過ぎました。早いものですねと書くと、チコちゃんにおこられそうです。でも決してポーとして生きてきたわけではありません。この半年は、見知らぬそして見ることも出来ないウィルスを相手にして、”国内での未発症の県は4つになったけど、その中にまだ山形が、入っているよ“という日々を繰り返しました。幸いにして、国民の自粛により発症などが抑えられて緊急事態宣言も撤廃され、先月19日からは一般の旅行なども緩和されました。完全なワクチンや治療薬が完成していない状態で、安心などという事態には程遠いのです。しかし、マスコミも国もそして多くの国民もなぜかすべてを乗り越えたような錯覚におちいつているようです。気を緩めて、ウィルスの二派—三派の襲来を絶対に許してはいけません。きちんとした手洗いで除菌、マスクの完全な使用など、最低限の防衛行動を維持しなければなりません。小生が関係している老人保健施設でも、これまでの制限を緩めることなど考えられないという姿勢を保って、発症を防ぐべく頑張っている毎日です。



〇〇一強と言われ、自負している首相も、韓国にも負けた感じですが。韓国では法相にしない方法で事を処理したようですが、わが国では自分で任命し法相に仕立て上げ、拳句の果てには、一番してはいけないことをさせてしまった結果になっております。検察改革で見られたものと相通じるものがぞろぞろ出て来ている感じさえします。説明責任の言は未だに有りませんね。時が過ぎれば、皆も忘れるから…なんて考えているなら、大変ですよ!! 判るかな? 悟れるかな?



夏の暑さに負けない丈夫な体で、困難な時期を乗り越えましょう。



令和2年7月10日
院長 清治 邦夫